令和4年(2022年) 4月1日～令和5年(2023)3月31日

教育関係共同利用拠点事業

ダイバーシティ＆インクルージョン教育拠点

令和4年度活動報告書

国立大学法人筑波大学
ヒューマンエンパワーメント推進局

目次

1 筑波大学ヒューマンエンパワーメント推進局教育関係共同利用拠点の事業と組織・・・1
1.1 筑波大学ヒューマンエンパワーメント推進局教育関係共同利用拠点の事業
1.2 筑波大学 BHE 教育関係共同利用拠点の組織・運営委員
1.3 筑波大学 BHE 教育関係共同利用拠点運営委員会の開催
2 教育関係共同利用拠点事業の各プログラム概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・5
2.1 多様な学生支援に関する FD/SD 研修会・講師派遣
2.2 多様な学生支援に関するコンサルテーション
2.3 多様な学生支援に関する教材・データベースの展開
2.4 カリキュラム開発・評価
3 教育関係共同利用拠点のプロジェクト全体運営および広報・啓発・・・・・・・・・・・・・・・・・・7
3.1 教育関係共同利用拠点のプロジェクト全体運営
3.2 教育関係共同利用拠点に関する広報・啓発
4 障害学生支援に関する他大学を対象とした FD/SD 研修会の開催・・・・・・・・・・・・・・・8
4.1 FD/SD 研修会「吃音のある学生の理解と支援」
4.2 FD/SD 研修会「仮想事例動画による事例検討会」
4.3 一般公開 WEB イベント「青年期・成人期における発達障害のある人を誰一人取り残さない社会に向けて」
4.4 FD/SD 研修会「学生のメンタルヘルスと修学支援」
4.5 FD/SD 研修会「仮想事例動画による事例検討会（キャリア支援）」
4.6 FD/SD 研修会「大学等に求められるインクルーシブなキャンパスづくりのために」
4.7 FD/SD 研修会「仮想事例動画による事例検討会（自己特性理解支援）」
4.8 e ラーニング型 FD/SD 研修（「多様な学生支援 e-learning」）
5 障害学生支援に関する相談対応・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・22
5.1 個別の訪問・相談対応
5.2 発達障害学生支援に関する相談ネットワーク（RADD ネット）
5.3 仮想事例動画を用いた研修
6 発達障害学生支援に有効なデータベース構築と配信・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・39
6.1 支援情報配信サービス「Learning Support Book（LSB）」の概要
6.2 支援情報配信サービス「Learning Support Book（LSB）」の共同利用実績
6.3 支援情報配信サービス「Learning Support Book（LSB）」の改善
7 障害学生支援に関する各種講習会への講師依頼の対応・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・47

教育関係共同利用拠点事業の概要

1 筑波大学ヒューマンエンパワーメント推進局教育関係共同利用拠点の事業と組織

1.1 筑波大学ヒューマンエンパワーメント推進局教育関係共同利用拠点の事業

筑波大学は、令和 5 年（2023 年）1 月 1 日付で、学生や職員を含む「すべての人の多様性を尊重し、可能性を広げる」というチャレンジを実現するべく、ヒューマンエンパワーメント推進局（英語名称：Bureau of Human Empowerment；以下、BHE）（旧名称：ダイバーシティ・アクセシビリティ・キャリアセンター）を発足した。BHE は、性別や障害の有無、国籍や肌の色、世代、セクシュアリティ、宗教、文化の違いに留まらず、出生地やキャリア、価値観、ワークスタイルなど、あらゆる違いをダイバーシティと捉え、すべての人が互いに尊重し合い、自分らしく学び、能力を最大限に発揮できるようにするための、より公正な教育環境と職場の実現を目指している。また、他大学等とも連携し、よりよい社会の構築に貢献していくことを目指している。

筑波大学 BHE の前身であるダイバーシティ・アクセシビリティ・キャリアセンターは、平成 30 年度～令和 2 年度にかけて教育関係共同利用拠点（拠点名称：多様な発達特性を有する学生に対する支援人材教育拠点）として文部科学大臣より認定され、多様な発達特性を有する学生への教職員の対応能力を向上するために活動してきた。令和 3 年度からは、教育関係共同利用拠点（拠点名称：ダイバーシティ＆インクルージョン教育拠点）として、新たに文部科学大臣より再認定を受け、これまで対象としていた発達障害学生のみならず、視覚障害、聴覚障害、運動障害（肢体不自由）といった身体障害学生や、LGBTQ 等の性的マイノリティ学生も対象に含めた多様な学生に対する合理的配慮の提供（またはそれに準じた調整）や、多様な学生への対応能力を向上するための教育拠点として、教職員のスキルアップを目的とした活動（FD/SD 研修会の企画・運営、講師派遣対応、コンサルテーション、Learning Support Book 等の教材・データベースの提供など）を展開している。加えて、これらの取組において、必要な知識や技能を体系的に獲得するための研修が必要とされ、専門性のキューブモデル（Rodolfa et al., 2005）による職種・キャリア段階・場面別の「立体的な」研修カリキュラムの開発・評価と、多様な学生を支援するハブ的人材の養成・認定によって各学校や学生の現状に即した支援のセミオーダー化を促進することを目指している。

ダイバーシティ＆インクルージョン教育拠点【R3-R5年度】

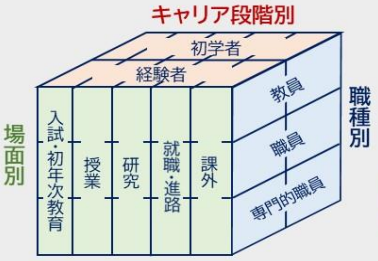
1）FD/SDで取り扱う学生像を「脳の多様性」から、「身体の多様性」や「性の多様性」までを包含
2）ICTツールの開発・活用による選択可能な教職員研修・学生支援パッケージの充実
3）キューブモデルによる職種・キャリア段階・場面別の「立体的」な研修カリキュラムの開発・評価
4）学生支援のハブ的人材の養成・認定による各学校や学生の現状に即した支援のセミオーダー化

1）「脳の多様性」から「身体の多様性」「性の多様性」を包含

障害の社会モデルに基づき、「脳の多様性」から「身体の多様性」、ならびに「性の多様性」についても、多様性の一側面としてFD/SDプログラムに包含

幅広い多様性教育の知見を最大限に共同利用するFD/SDプログラムを構築

3）立体的な研修カリキュラムの開発・評価



専門性のキューブモデル（Rodolfa et al., 2005）
職種別・キャリア段階別の研修内容に加えて「場面別」に研修内容を系統化

FD/SD等プログラムを定量的・定性的に効果評価

2）選択可能な教職員研修・学生支援パッケージ

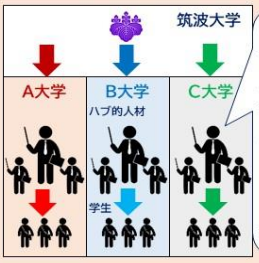
FD/SD研修・講師派遣 オンサイト型／ウェビナー型 e-learning形式 演習・ワークショップ形式	**コンサルテーション** 対面・電話・メール・ビデオ通話による個別相談対応 相談ネットワーク（RADDネット）
カリキュラム開発・評価 学生の困り感や強みに基づくアセスメント/支援フロー 教職員スキル評価/人材養成	**教材・データベース** 支援情報データベース（LSB）、仮想事例動画、マンガを用いた多様性啓発

※1発達障害の例

ICTツールの開発・活用により、多忙な教職員でも知りたい/身に付けたい知識・技術を最適な方法やタイミングで提供※1

選択可能な教職員研修・学生支援パッケージを提供

4）人材養成・認定による支援のセミオーダー化



コンピテンシーに基づくスキル評価
↓
一定のスキルのある教職員の認定
↓
各大学特有の課題をコンサルテーション等によりカバー
↓
自校で利用できる教材・DBの提供

各職種に求められるコンピテンシーを作成し、教職員のスキル評価を実施、スキルを要するハブ的人材の養成

各学校・学生に即した学生支援のセミオーダー化

1.2 筑波大学 BHE 教育関係共同利用拠点の組織・運営委員

本事業の共同利用の実施に関する重要事項を審議する会として、運営委員会を設置している。運営委員会は、関連領域を専門とする学内外の有識者から構成されている。以下に詳細を示す。

運営委員会委員一覧（令和５年２月１日時点）

氏　　名	職 名	所　　属
太 田　　圭	局 長 （副学長）	筑波大学
山 口　　香	次 長 （教 授）	ヒューマンエンパワーメント推進局 （体育系）
竹 田 一 則	次 長 （教 授）	ヒューマンエンパワーメント推進局 （人間系）
坂 入 洋 右	次 長 （教 授）	ヒューマンエンパワーメント推進局 （体育系）
関　　瑞 穂	次 長 （学生部長）	ヒューマンエンパワーメント推進局 （学生部）
梅 田　　恵	業務推進 マネージャー	ヒューマンエンパワーメント推進局
脇　　貴 典	助 教	ヒューマンエンパワーメント推進局
中 野 泰 伺	助 教	ヒューマンエンパワーメント推進局
野 呂 文 行	教 授	人間系
岡 崎 慎 治	准教授	人間系
米 田 宏 樹	准教授	人間系
佐々木 銀 河	准教授	人間系
宮 内 久 絵	准教授	人間系
河 野 禎 之	助 教	人間系
田 中 真 理	教 授	九州大学基幹教育院人文社会科学部門
高 橋 知 音	教 授	信州大学学術研究院教育学系

岩 崎 信 明	病院長	社会医療法人 若竹会 土浦リハビリテーション病院
丸 田 伯 子	教 授	一橋大学保健センター
佐 藤 克 敏	教 授	京都教育大学教育学部発達障害学科
村 田 淳	准教授	京都大学学生総合支援機構障害学生支援部門
近 藤 武 夫	教 授	東京大学先端科学技術研究センター
鮎 澤 聡	教 授	筑波技術大学保健科学部保健学科 鍼灸学専攻
石 井 映 美	教 授	早稲田大学保健センター

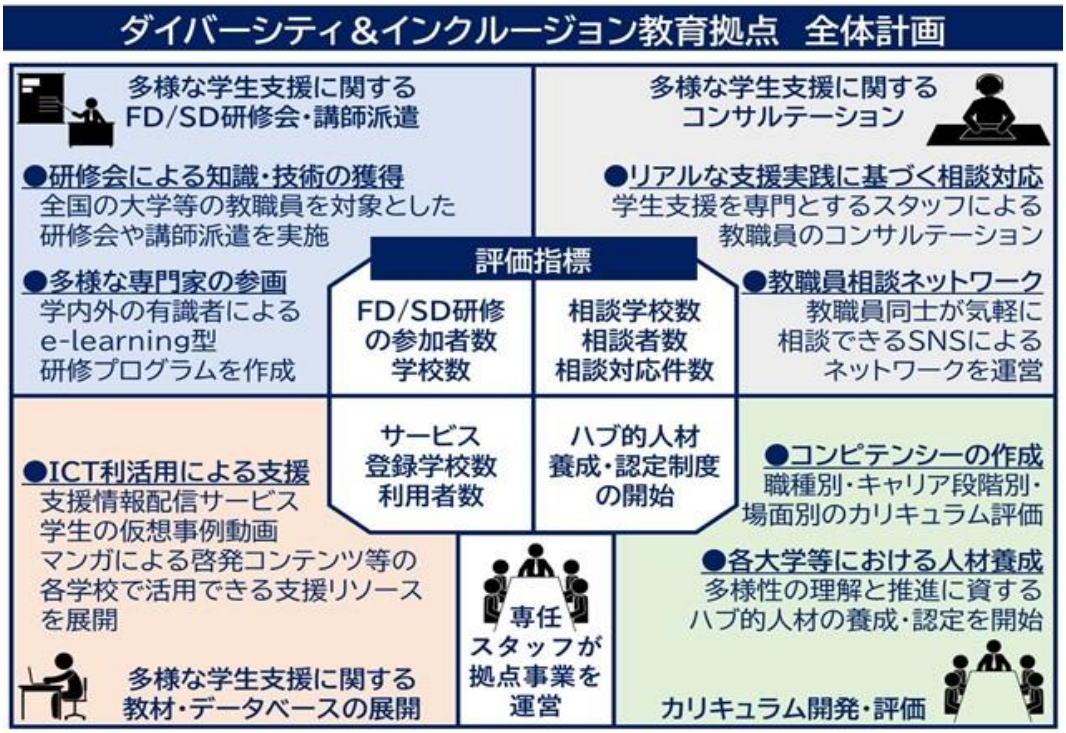
1.3 筑波大学 BHE 教育関係共同利用拠点運営委員会の開催

令和 5 年 2 月 28 日(火)に、令和 4 年度教育関係共同利用拠点運営委員会を遠隔会議にて実施した。委員会では、令和 4 年度の活動実施状況および令和 5 年度の活動計画(案)人材養成プログラム(BHE 認定コース)ならびに「多様な学生支援 e-learning」の有償共同利用について審議された。審議内容について、運営委員との意見交換が行われ、本拠点事業の内容、次年度の活動計画等について承認された。

2 教育関係共同利用拠点事業の各プログラム概要

本事業では、前期拠点事業（事業名：「多様な発達特性を有する学生に対する支援人材育成教育拠点」）の継続的・発展的な取り組みとして、以下の 4 点を中心に進めていくこととした。各プログラムの詳細は「3」以降に示す。

（1）多様な学生支援に関する FD/SD 研修会・講師派遣
（2）多様な学生支援に関するコンサルテーション
（3）多様な学生支援に関する教材・データベースの展開
（4）カリキュラム開発・評価



2.1 多様な学生支援に関する FD/SD 研修会・講師派遣

全国の高等教育機関の教職員を対象とした FD/SD 研修会を企画・実施した。今年度は、吃音のある学生の理解と支援、仮想事例動画による事例検討会（アセスメント、キャリア支援、自己特性理解支援）、青年期・成人期における発達障害者支援、学生のメンタルヘルスと修学支援、そして、大学等に求められるインクルーシブなキャンパスづくりに関するテーマを取り扱った。研修会は、ウェビナー型またはグループワークを含めたワークショップ型にて実施した。

また、発達障害・身体障害・LGBTQ に関する有識者を講師とした、多様な学生支援に関する e-learning を配信した。あわせて、他大学からの要請に応じて、本組織の教職員による講師派遣を行った。講演等の話題提供のみならず、必要に応じて、演習形式などの研修を実施した。これらの講師派遣の対応を通じて、各大学の支援体制の整備に貢献した。

2.2 多様な学生支援に関するコンサルテーション

電話・メール・ビデオ通話等による遠隔相談を実施し、各大学等にコンサルテーション（相談対応）を行った。また、他大学等からの訪問・見学への対応も行った。あわせて、クローズ型 SNS を用いた教職員相談ネットワーク（RADD ネット）では、昨年度に引き続き、RADD ネット参加者を対象とした交流会も企画・開催し、多様な学生支援に取り組む教職員同士による支援・対応ノウハウの共有の場を設定した。

2.3 多様な学生支援に関する教材・データベースの展開

大学等の高等教育機関に在籍する多様な特性を有する学生が自立して自身の学習・生活スキルを向上するツールならびに、これらの学生に対する高等教育機関の教職員への多様性に関する理解・啓発、適切な知識や対応スキルの習得が必要である。そのための教材・データベースとして、支援情報配信サービス「Learning Support Book（LSB）」、学生支援に関する仮想事例動画、マンガを用いた多様性啓発コンテンツを展開した。

2.4 カリキュラム開発・評価

専門性のキューブモデル（Rodolfa et al., 2005）に基づき、各事業を関連させて、職種に応じて求められるコンピテンシーを作成することとした。今年度までに検討した、高等教育機関において学生支援に携わる教職員が身につけるべき「多様性の理解」、「修学支援」、「環境調整」、「移行支援」、「連携・協働」の 5 つのスキル・コンピテンシー（大分類）に応じて、「多様な学生支援 e-learning」を対応づける形で、支援人材養成のためのプログラム実施に向けた準備を進めた。

3 教育関係共同利用拠点のプロジェクト全体運営および広報・啓発

3.1 教育関係共同利用拠点のプロジェクト全体運営

昨年度に引き続き、非常勤職員として安達礼子氏および齋藤のぞみ氏を採用し、教育関係共同利用拠点に関する実働体制を整えた。あわせて、BHE（アクセシビリティ支援チーム）の教職員と連携しつつ、教育関係共同利用拠点を運営している。

3.2 教育関係共同利用拠点に関する広報・啓発

（1）教職員や学生、一般等への障害に関する理解・啓発を目的として、本拠点に関する活動内容について、マンガ（グラフィックレコーディング）による情報発信を行った。グラフィックレコーディングに関しては、BHE（アクセシビリティ支援チーム）が管轄する Twitter や Facebook、ならびにホームページ等で広く閲覧・ダウンロードすることが可能となっている。

また、令和 4 年 10 月 14 日に、BHE（旧：DAC センター）の監修により、発達障害啓発マンガ「ヒトはそれを『発達障害』と名づけました」が金子書房より発売された。

（2）WEB サイト、Facebook、Twitter のそれぞれにおいて情報発信を行った。令和 5 年 1 月時点で Facebook では 27,159 名（昨年度 16,995 名）にリーチし、Twitter の関連投稿には延べ 8,346 件（昨年度 2,372 件）のいいね！（全 21 回の関連投稿中、投稿1回あたり平均 397 件）（昨年度：全 77 回の関連投稿中、投稿1回あたり平均 31 件）を得た。

（3）教育関係共同利用拠点における取組や共同利用に関する情報を周知するために、本拠点事業に関する WEB サイトを随時、更新した。
https://dac.tsukuba.ac.jp/

発達障害学生、身体障害学生ならびに LGBTQ 等の性的マイノリティ学生への支援に関する情報は、上記 WEB サイトにおいて URL を紹介している。

4 障害学生支援に関する他大学を対象とした FD/SD 研修会の開催

学生支援に関する各大学教職員等を対象とした研修会を 7 回開催し、当日参加・見逃し配信等を含め、延べ 6,414 名(前年度 2,630 名)が参加した。なお、今年度は、昨年度に引き続き、新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け、主に Zoom を用いたウェビナー型の研修会を実施した。

4.1 FD/SD 研修会「吃音のある学生の理解と支援」

令和 4 年 6 月 28 日(火)に令和 4 年度第 1 回教育関係共同利用拠点事業「ダイバーシティ＆インクルージョン教育拠点」FD/SD 研修会「**吃音のある学生の理解と支援**」を開催した。Zoom ウェビナー方式で実施し、教職員、学生、一般から申込があり、当日は 184 名が参加した。また、令和 4 年 7 月 22 日から令和 4 年 8 月 22 日まで、オンデマンドによる見逃し配信を行った。見逃し配信には 218 名の申込があり、291 回の視聴があった(累計 402 名)。

［企画・司会］ 中野 泰伺 （筑波大学 DAC センター 助教）
［講師］ 宮本 昌子 （筑波大学人間系 教授）
［題目］ 吃音のある学生が過ごしやすいキャンパスを目指して

【企画趣旨】

音声・言語障害学の専門家であり、吃音研究や吃音のある当事者支援の第一人者である宮本昌子先生を講師にお招きして、吃音のある学生の修学上の困難さや心理状態について理解することに加えて、そのような症状のある学生への関わり方や接し方を学ぶことを目的として実施した。

【講演概要等】

講演では、吃音に関する基本的な情報としての吃音症状および非流暢性の分類の概要説明や幼児期・学齢期・大学生期における状態像や症状へのアプローチ例の紹介に加えて、支援事例に係る動画視聴を通して発達の軌跡等が共有された。

研修会後に参加者の方に回答いただいたアンケートでは、「吃音をテーマにした研修会は貴重な機会で、とても勉強になった」、「できること・できないことに焦点を当ててしまいがちだが、まずは話を聴く、これまでの歩みを受け止めることが支援のスタートになるのだと思った」、「吃音のある学生が抱える困難について理解を深めることができた。明日からの臨床に役立てていきたい」等、参加者の皆様から多くのご質問や感想をいただいた。

なお、本研修会の報告マンガは、以下の URL よりダウンロードすることが可能である。
https://dac.tsukuba.ac.jp/radd/fdsd_20220629report/

（左：研修会フライヤー　右：研修会報告マンガの一部）

4.2 FD/SD 研修会「仮想事例動画による事例検討会」

令和 4 年 7 月 29 日(金)に令和 4 年度第 2 回教育関係共同利用拠点事業「ダイバーシティ＆インクルージョン教育拠点」FD/SD 研修会「仮想事例動画による事例検討会」を Zoom ミーティングにて開催した。前半は講師講演、後半は発達障害学生のアセスメントに関する仮想事例動画を基にしたグループワークを実施した。当日は「発達障害学生の支援に携わった経験を有する支援コーディネーターまたはカウンセラー」が、全国から 35 名参加した。また、令和 4 年 8 月 26 日から令和 4 年 9 月 26 日まで、講師講演のみについて、オンデマンドによる見逃し配信を行った。見逃し配信には 153 名の申込があり、175 回の視聴があった(累計 188 名)。

［企画・司会］ 中野　泰伺 （筑波大学 DAC センター　助教）

［講師］ 高橋　知音 （信州大学学術研究院教育学系　教授）

［講演題目］ 多様な発達特性を有する学生のアセスメントをふまえた修学支援

【企画趣旨】

高等教育機関に在籍する学生の特性や支援ニーズは多様化の傾向にあり、学生の特性や状態にあわせた修学支援を展開していくためには，学生の状態や学生が学んでいる環境につい

てのアセスメントが重要である。ただ、個人情報保護の観点もあり、関係者の枠を超えて支援対応方法に関する情報共有や対応方針を検討することが難しい側面があった。本研修会では、複数の事例を組み合わせて匿名化された仮想事例動画を用いて、アセスメントの結果を踏まえた支援のあり方や対応ノウハウについて検討することを目的とした。

【講演概要等】

講演では、読み書き困難を中心とした修学支援の例を通して、アセスメント結果をどのように支援に結びつけるか、について話題提供された。また、聴き取りや心理検査によるアセスメントで収集すべき情報、読み書きに影響を及ぼす認知機能や健康状態、大学生に利用可能な主な検査等が共有された。

研修会後に参加者の方に回答いただいたアンケートでは、「座学のみの研修会と違い、仮想事例の研修会は学びやすかった」、「実践に近い内容で、意見交換もでき大変有意義な研修だった」、「修学支援をこなしていくのは困難なこともあるが、今回の研修のおかげでモチベーション上昇につながりそう」等のご感想をいただいた。

なお、本研修会の報告マンガは、以下の URL よりダウンロードすることが可能である。
https://dac.tsukuba.ac.jp/radd/fdsd_20220729report/

（左:研修会フライヤー　右:研修会報告マンガの一部）

4.３　一般公開 WEB イベント「青年期・成人期における発達障害のある人を誰一人取り残さない社会に向けて」

令和４年９月４日(日)に RISTEX との共催として一般公開の WEB イベント「青年期・成人期における発達障害のある人を誰一人取り残さない社会に向けて」を開催した。本イベントは二部構成にて開催された。当日は 804 名がリアルタイムで参加した。また、令和４年９月４日から令和４年 11 月４日まで、オンデマンドによる見逃し配信を行った。リアルタイム参加者を含めて累計 4,787 名の申込があり、見逃し配信は 8,383 回の視聴があった。

【第一部　基調講演】

［企画・司会］ 佐々木　銀河 （筑波大学人間系　准教授/ダイバーシティ・アクセシビリティ・キャリアセンター協力教員）

［講師］ 本田　秀夫 （信州大学医学部子どものこころの発達医学教室　教授）

［題目］ 青年期・成人期における発達障害のある人を取り巻く現状や課題、目指すべきこと

【第二部　プロジェクト報告・パネルディスカッション】

＜プロジェクト成果報告＞　佐々木　銀河 （筑波大学人間系　准教授/ダイバーシティ・アクセシビリティ・キャリアセンター協力教員）

［題目］「発達障害に関連する困りごとに応じて対処法を自動提案するチャットボット」

＜パネルディスカッション＞

[テーマ]「青年期・成人期における発達障害のある人を誰一人取り残さない社会に向けて、私たちができること」

[パネリスト]

加藤　永歳 （厚生労働省　社会・援護局　発達障害対策専門官）

岩田　淳子 （成蹊大学文学部　教授）

後藤　千絵 （一般社団法人　サステイナブル・サポート代表理事）

芝崎　文子 （東京大学大学院教育学研究科博士課程）

[モデレーター]

佐々木　銀河 （筑波大学人間系　准教授/ダイバーシティ・アクセシビリティ・キャリアセンター協力教員）

【企画趣旨・概要等】

青年期・成人期における発達障害のある人を取り巻く課題として、教育や就労環境にアクセスすることの難しさや生きづらさがある。青年期・成人期では、特別支援教育からの変

わり目として、高校から大学等の高等教育機関へ、高等教育機関から就労への移行などライフステージに応じた途切れのない支援が求められている。しかしながら、各機関や人によって対応が変わることも少なくなく、その一因として、医学的診断の有無による社会的対応の違いがある。最近では、グレーゾーンやニューロダイバーシティ（神経学的多様性）という言葉も広まりつつあるが、現実には発達障害の特性があっても、医学的診断がないために、あるいは自発的に援助を求めることが難しく、生きづらさを抱えたまま孤立してしまう人は少なくない。本イベントでは、SDGs の理念である「誰一人取り残さない」社会に向けて、青年期・成人期における発達障害のある人を取り巻く現状や課題、そして、私たちが取り組めることについて議論した。

4.4 FD/SD 研修会「学生のメンタルヘルスと修学支援」

令和 4 年 9 月 27 日（火）に令和 4 年度第 3 回教育関係共同利用拠点事業「ダイバーシティ＆インクルージョン教育拠点」FD/SD 研修会「学生のメンタルヘルスと修学支援」を Zoom ウェビナー方式で開催した。教職員、学生、一般から申込があり、当日は 182 名が参加した。また、令和 4 年 10 月 13 日から令和 4 年 11 月 14 日まで、オンデマンドによる見逃し配信を行った。見逃し配信には 231 名の申込があり、356 回の視聴があった（累計 413 名）。

［企画・司会］ 中野 泰伺 （筑波大学 DAC センター 助教）
［講師］ 石井 映美 （早稲田大学保健センター 教授）
［題目］ 学生のメンタルヘルスを支えるために大学等の教職員ができること

【企画趣旨】

充実したキャンパスライフを送るためには心身ともに健康であることが重要だが、大学生期は心身の不安定状態を呈しやすい時期であることに加え、昨今の種々の状況から、潜在的にも顕在的にも不安やストレス等の困難さを抱える学生が多く存在することが想定される。

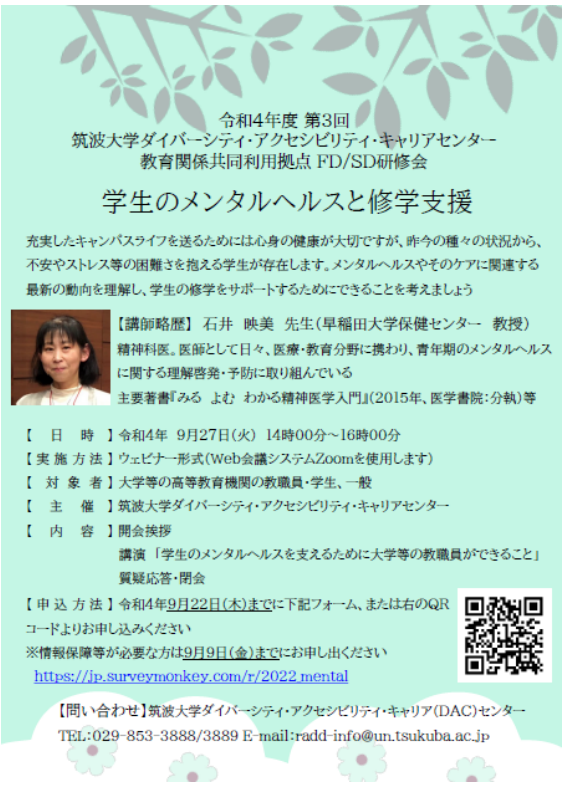
本研修会では、生活の質（Quality of Life; QOL）の維持増進に重要であると考えられるメンタルヘルスならびにそのケアに関連する知識や最新の動向を参加者が理解し、学生の修学をサポートするための学びの機会とすることを目的として実施した。

【講演概要等】

精神疾患に関する基本的状況や大学生を中心とした若者を取り巻く状況に加えて、身近な学生の些細な変化に目を向け、声をかけるといった大学等の教職員ができること、心配な学生にどのように対応したらよいか等が情報共有された。

研修会後に参加者の方に回答いただいたアンケートでは、「配慮の必要な学生の対応が一気に増加し、対応に苦慮していたため非常に勉強になった」、「業務に追われず、学生の様子をしっかりみて気づくことのできる職員でありたいと思った」、「保護者連携と医療機関

連携を円滑に進めることの重要性を改めて感じた」等、参加者の皆様から多くのご質問や感想をいただいた。
なお、本研修会の報告マンガは、以下の URL よりダウンロードすることが可能である。
https://dac.tsukuba.ac.jp/radd/fdsd_20220927report/



（左：研修会フライヤー　右：研修会報告マンガの一部）

4.5 FD/SD 研修会「仮想事例動画による事例検討会（キャリア支援）」

令和 4 年 10 月 20 日（木）に令和 4 年度第 4 回教育関係共同利用拠点事業「ダイバーシティ＆インクルージョン教育拠点」FD/SD 研修会「**仮想事例動画による事例検討会（キャリア支援）**」を開催した。Zoom ミーティング方式で実施し、前半は講師講演、後半は発達障害学生のキャリア相談に関する仮想事例動画を基にしたグループワークを実施した。当日は高等教育機関において発達障害や精神障害のある学生のキャリア支援に携わる支援者が、全国から 31 名参加した。さらに令和 4 年 12 月 7 日から令和 5 年 1 月 18 日まで、オンデマンドによる見逃し配信を行った。見逃し配信には 244 名の申込があり、296 回の視聴があった（累計 275 名）。

［企画・司会］ 末吉　彩香 （筑波大学人間系／DAC センター　助教）

［講師］池田　浩之（兵庫教育大学大学院　助教）
［題目］発達障害・精神障害を有する学生に対するキャリア支援

【企画趣旨】
障害学生の中でも発達障害や精神障害のある学生は就職率が低く、支援体制の整備や充実が期待されている。しかしながら障害学生へのキャリア支援は障害学生支援室以外の部署、例えばキャリアセンター等で対応する場合もあり、教職員が対応に苦慮する可能性がある。本研修会では複数の事例を組み合わせて匿名化された仮想事例動画を用い、高等教育機関における発達障害や精神障害の特性のある学生に対するキャリア支援のあり方や、対応ノウハウについて検討することを目的とした。

【講演概要等】
講演では、発達障害や精神障害のある学生の卒後の就職・就労支援の現状や、在学中の学生対応について紹介があった。また仮想事例動画を用いたグループワークでは仮想事例を基にグループ内で支援方針を検討し、参加者間で自校の支援体制について情報共有するなど、交流を深めた。
研修会後に参加者の方に回答いただいたアンケートでは、「池田先生のご講演では、就労支援の実践紹介など詳細を共有頂き、学びや気付きを頂くことができました。」、「仮想事例によるグループワークも皆さんの学校でのさまざまな取り組みを聞かせていただけて参考になりました。参加する前は少し緊張しましたが、すぐに打ち解けて話し合いができ、15分と25分という時間がとても短く感じました。」、「支援者の熱い想いが、一支援者としての私自身にとっても心強く、これからに力を頂戴する機会となりました。」等、参加者の皆様から多くのご質問や感想をいただいた。

なお、本研修会の報告マンガは、以下の URL よりダウンロードすることが可能である。
https://dac.tsukuba.ac.jp/radd/fdsd 20221020report/

4. 6　FD/SD 研修会「大学等に求められるインクルーシブなキャンパスづくりのために」
令和 4 年 12 月 22 日(木)に令和 4 年度第 5 回教育関係共同利用拠点事業「ダイバーシティ＆インクルージョン教育拠点」FD/SD 研修会「**大学等に求められるインクルーシブなキャンパスづくりのために**」を Zoom ミーティングにて開催した。前半は講師講演、後半は参加者の職種別・職種間の意見交換を行うグループワークを実施した。当日は「障害学生支援室・学生相談室の管理・運営者(室長等)および障害学生支援担当者(支援コーディネーター、カウンセラー等)」が、全国から 25 名参加した。また、令和 5 年 1 月 24 日から令和 5 年 2 月 27 日まで、講師講演のみについて、オンデマンドによる見逃し配信を行った。見逃し配信には 188 名の申込があり、260 回の視聴があった(累計 213

名)。

［企画・司会］ 中野　泰伺（筑波大学 DAC センター　助教）

［講師］村田　淳（京都大学　学生総合支援機構　障害学生支援部門　准教授）

［講演題目］円滑な障害学生支援のために大学ができることとは

【企画趣旨】

障害者差別解消法が令和３年５月に改正され、私立大学を含むすべての大学等において、不当な差別的取り扱いの禁止及び合理的配慮の不提供の禁止が義務化されることとなった。そのような流れを受け、障害学生支援体制を急ピッチで整えている大学等も少なくないことが想定される。また、各大学等の状況により、障害学生支援に関連する専門性を十分に備えないまま、多様な障害特性を有する学生対応に追われる現状もうかがえ、各大学等が組織的に障害学生支援体制を運営していくことが求められている。

本研修会では、職種別のワークショップ・意見交換を通して、各大学の支援体制整備に役立ててもらうことに加えて、職種間のワークショップ・意見交換を通して、各大学の組織マネジメントにも役立ててもらうことを目的とした。

【講演概要等】

講演では、障害者施策の動向を踏まえた大学等における障害学生支援の現状、障害者差別解消法の改正を受けて障害学生支援体制をどのように整備していったらよいか、高等教育機関が果たすべき役割等が共有された。

研修会後に参加者の方に回答いただいたアンケートでは、「他大学の状況や取り組みについてお聞きすることができ、大変勉強になった」、「体制面のことや、合理的配慮調整のフローなどについて、ざっくばらんに情報交換・意見交換できたのがよかった」、「他の大学の状況や課題を伺うことができ、所属機関の現状を見直す視点を持つことができた」等のご感想をいただいた。

なお、本研修会の報告マンガは、以下の URL よりダウンロードすることが可能である。
https://dac.tsukuba.ac.jp/radd/fdsd 20221222report/

（左：研修会フライヤー　右：研修会報告マンガの一部）

4.7　FD/SD 研修会「仮想事例動画による事例検討会（自己特性理解支援）」

令和 5（2023）年 1 月 20 日（金）に、令和 4 年度第 6 回教育関係共同利用拠点「ダイバーシティ＆インクルージョン教育拠点」FD/SD 研修会「多様な発達特性を有する学生の自己特性理解の支援」をオンラインで開催した。本研修会は、高等教育機関で発達障害学生の支援に携わる教職員（障害学生支援室や学生相談室に所属する教職員等）を対象に、多様な発達特性を有する学生の自己特性理解の支援を目的として、仮想事例動画を用いたグループワーク形式の研修会を実施した。研修会には全国の高等教育機関における教職員 21 名が参加した。また、令和 5 年 3 月 17 日から令和 5 年 4 月 21 日まで、講師講演のみについて、オンデマンドによる見逃し配信を行った。見逃し配信には 115 名の申込があり、120 回の視聴があった（累計 136 名）。

［企画・司会］脇　貴典（筑波大学ヒューマンエンパワーメント推進局　助教）
［講師］田中　真理（九州大学　教授）
［講演題目］多様な発達特性を有する学生の自己特性理解の支援

【企画趣旨】

障害学生の中でも発達障害学生における自己特性理解についての支援のニーズは高く、今後の支援の充実が期待されている。また、大学等において合理的配慮を受けるために

は、学生自らが相談窓口等に申請を行う必要がある。加えて、合理的配慮の提供プロセスでは建設的対話として、大学等と学生が、双方の意向を考慮に入れ、相互理解を深めつつ、困難の解決に向けて協力し合う必要がある。この一連のプロセスの中で、発達障害学生自身の自己特性に関する理解や、学生自身の障害特性の受け止めなどが重要となる。さらに、教職員には、修学・生活面での困難への対応、医学的診断のない学生への対応などが求められるが、これらは個別具体性が高く、個々の事例への対応に苦慮する可能性がある。

本研修会では複数の事例を組み合わせて匿名化された仮想事例動画を用い、高等教育機関における発達障害学生の自己特性理解の支援のあり方や、個々の対応について検討する。

【講演概要等】

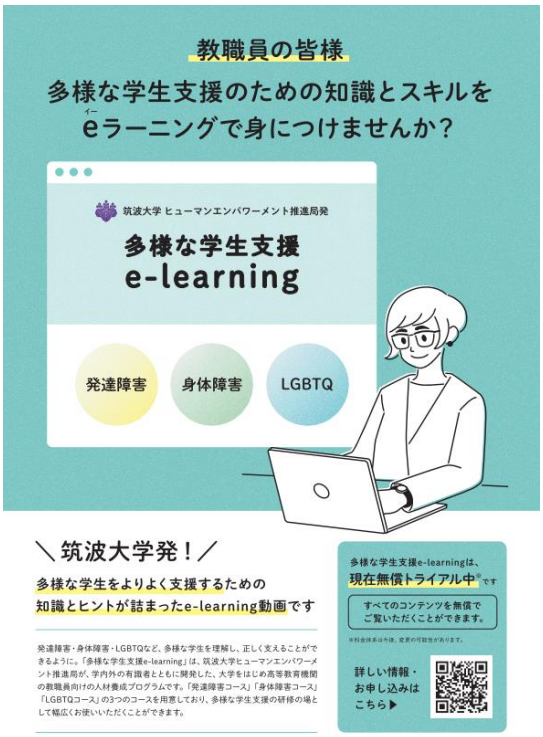
講演では、多様な発達特性を有する学生の自己理解に向けて、自己理解の概要、高等教育機関における自己理解の必要性と具体例、就職に向けての支援などについて、高等教育機関で支援者が果たすべき役割等が共有された。加えて、研修会の後半では仮想事例動画をもとに参加者同士でディスカッションを行い、理解を深めた。

研修会後に参加者に回答いただいたアンケートでは、「自己理解の支援に関する視点に関して、具体的かつ幅広く知ることができ、大変参考になった」、「前回の研修にも参加させていただきましたが、選定された事例が具体的でかつ他の先生の視点をきいてみたいと思える内容で、話し合いがしやすく、大変勉強になりました。またぜひ参加させていただきたいと思います。」、「仮想事例を通じて、日頃感じていることを他大学の方もそれぞれのお立場で同じように感じていたり、それぞれ工夫されていると知ることができ、良かったです。」といったご感想をいただいた。

（上：研修会フライヤー）

4.8 e ラーニング型 FD/SD 研修(「多様な学生支援 e-learning」)

上記のウェビナー型研修会のみならず、e ラーニング型研修の公開を行っている(https://dac.tsukuba.ac.jp/radd/joint-base/e-learning/)。各大学等の教職員が自由にアクセスできるように e ラーニングシステムを取り入れ、学内外の有識者による講義動画コンテンツの作成を継続的に実施している。今年度は、その広報チラシを作成した。



(上:広報チラシ)

また、今年度、講義動画は発達障害コース(概要コース・基礎コース)、身体障害コース、LGBTQ コースの3コースに加え、仮想事例動画コースの提供を開始した。動画は累計35件公開している。

e ラーニング公開コンテンツ一覧(※所属はコンテンツ作成時)

所属	講師名 (敬称略)	コース カテゴリ	e ラーニングでの講演題目
筑波大学	竹田一則	発達障害	障害学生支援の現状と基本的な考え方
筑波大学	野呂文行	発達障害	ASD のある学生に対する修学支援

筑波大学	岡崎慎治	発達障害	ADHD のある学生に対する修学支援
筑波大学	三盃亜美	発達障害	SLD のある学生に対する修学支援
一橋大学	丸田伯子	発達障害	精神障害と発達障害をあわせもつ学生への支援
早稲田大学	石井映美	発達障害	発達障害のある学生を医療につなぐ
信州大学	高橋知音	発達障害	発達障害のある学生へのアセスメント－合理的配慮のための根拠資料の作成と支援立案の観点から－
筑波大学	佐々木銀河	発達障害	発達障害のある学生への修学支援
富山大学	西村優紀美	発達障害	発達障害学生に対する心理教育的支援と意思表明支援のあり方
長崎大学	ピーター・バーニック	発達障害	発達障害のある学生へのセルフアドボカシーの支援
京都教育大学	佐藤克敏	発達障害	高等教育機関における学びのユニバーサルデザイン
九州大学	田中真理	発達障害	発達障害のある学生と自己特性理解
株式会社 Kaien	鈴木慶太	発達障害	高等教育機関以外の立場から見た発達障害の学生の就職と就職支援のあり方
社会福祉法人すいせい	塚田吉登	発達障害	発達障害のある学生への就職・キャリア支援として高等教育機関ができること
京都大学	村田　淳	発達障害	合理的配慮の基本的な考え方とその調整・検討プロセス
岡山理科大学	川島　聡	発達障害	発達障害のある学生への合理的配慮に関連した法令の理解とコンプライアンス
岡山大学	池谷航介	発達障害	発達障害のある学生に対する「建設的対話」のための支援
京都大学	宮谷祐史	身体障害	肢体不自由学生の理解と支援
群馬パース大学	岡野由実	身体障害	聴覚障害学生の理解と支援 ～聴覚を活用する難聴学生について～
大阪大学	楠　敬太	身体障害	視覚障害学生を対象としたキャンパス内におけるアクセシブル教材の利活用

日本福祉大学	渡辺崇史	身体障害	肢体不自由学生の学修支援のための機器利用のヒント
小田原短期大学	高野陽介	身体障害	肢体不自由のある高校生の学校生活・進学に関する支援
小田原短期大学	杉中拓央	身体障害	聴覚障害学生のキャリア発達支援
立命館大学	酒井春奈	身体障害	障害学生に関する災害前・災害時対応
広島大学	森 まゆ	身体障害	視覚障害学生の理解と支援
慶應義塾大学	中野泰志	身体障害	オンライン授業における視覚障害のある学生の合理的配慮と修学支援
東京大学	熊谷晋一郎	身体障害	学知による支援
一般社団法人 fair	松岡宗嗣	LGBTQ	性的マイノリティが直面する具体的な困りごととその背景
認定特定非営利活動法人 ReBit	藥師実芳	LGBTQ	LGBTQ と就職活動・キャリア支援
EY Japan	梅田 恵	LGBTQ	LGBT＋インクルージョンに関する企業の取り組み
一般社団法人 fair	松岡宗嗣	LGBTQ	アウティング
一橋大学	神谷悠一	LGBTQ	法で対応が義務化となった「SOGI ハラ」とは？
一橋大学	柘植道子	LGBTQ	セクシャル・マイノリティとメンタルヘルス
日本性分化疾患患者家族会連絡会 ネクス DSD ジャパン	ヨヘイル	LGBTQ	男女にある体の性の様々なカタチ
お茶の水女子大学	三浦 徹	LGBTQ	女子大学におけるトランスジェンダー学生の受入れについて
-	-	仮想事例	ADHD のある学生が卒業研究を思うように進められていない

なお、各コースの視聴回数と登録者数（令和５年２月15日時点）は以下の通りである。

コース名	視聴回数	登録者数
発達障害（基礎）	197	111
発達障害（概論）	603	230
身体障害	124	38
LGBTQ	82	33

5 障害学生支援に関する相談対応

5.1 個別の訪問・相談対応

外部機関からの訪問対応について、今年度は 20 件(前年度 1 件)行った。詳細は以下の通りである。

日時	相談者	対応者(敬称略)	概要
令和 4 年 5 月 6 日	株式会社乃村工藝社 職員 2 名	佐々木 銀河 (人間系 准教授)	アクセシブルスタディルームの見学・情報交換
5 月 24 日	中央大学・筑波大学 教員・学生 12 名	佐々木 銀河 (人間系 准教授)	アクセシブルスタディルームの見学・情報交換
5 月 24 日	サポートセンター しょうなん 職員 4 名	佐々木 銀河 (人間系 准教授) 大村 美保 (人間系 助教/DAC センター ソーシャルワークスーパーバイザー) 脇 貴典 (DAC センター 助教) 鶴井 孝大 (DAC センター支援コーディネーター)	障害学生支援準備室及びアクセシブルスタディルームの見学・情報交換
7 月 6 日	齋藤茂昭記念財団 スタッフ 6 名	佐々木 銀河 (人間系 准教授)	障害学生支援体制の説明
7 月 15 日	筑波大学附属 視覚特別支援学校 高等部 2 年 19 名 教員 4 名	小林 秀之 (人間系 准教授) 宮内 久絵 (人間系 准教授) 末吉 彩香 (人間系/DAC センター助教) 鶴井 孝大 (DAC センター支援コーディネーター)	オンラインキャンパス体験 (模擬講義、視覚障害学生、ピア・チューター学生の話)

7月27日	千葉工業大学 職員４名	佐々木 銀河 （人間系 准教授） 脇 貴典 （DAC センター 助教） 末吉 彩香 （人間系/DAC センター 助教） 中野 泰伺 （DAC センター 助教）	発達障害・精神障害学生についての情報交換・アクセシブルスタディルームの見学
９月７日	メインストリーム協会 スタッフ４名	大村 美保 （人間系 助教） 山森 一希 （DAC センター 研究員）	障害学生支援体制の説明 障害学生向けインターンシップの打ち合わせ
９月17日	インクルーシブ・ リーダーズ・カレッジ 講座受講者７名	河野 禎之 （人間系 助教）	アクセシブルスタディルームの見学
10月19日	日本学生支援機構 理事長代理１名 部長１名、課長１名	太田 圭 （DAC センター長） 竹田 一則 （人間系 教授/ DAC センター業務推進マネージャー） 佐々木 銀河 （人間系 准教授） 脇 貴典 （DAC センター 助教） 末吉 彩香 （人間系/DAC センター 助教） 中野 泰伺 （DAC センター 助教）	障害学生支援体制・発達障害学生支援プロジェクト事業の概要説明、DAC センター障害学生支援関連施設等見学、意見交換
11月15日	茨城県教育庁 職員１名	佐々木 銀河 （人間系 准教授） 末吉 彩香 （人間系/DAC センター	障害学生支援体制についての情報交換

		助教）	
12 月 2 日	日本学生支援機構 障害学生支援課職員 4 名、学生支援企画課 職員 2 名	佐々木 銀河 （人間系 准教授） 脇 貴典 （DAC センター 助教） 末吉 彩香 （人間系/DAC センター 助教） 中野 泰伺 （DAC センター 助教）	障害学生支援体制・発達障害学生支援プロジェクト事業の概要説明、DAC センター障害学生支援関連施設等見学、意見交換
12 月 6 日	パナソニックEW エンジニアリング 株式会社 スタッフ 1 名	中野 泰伺 （DAC センター 助教）	アクセシブルスタディルームの見学
12 月 12 日	南山大学保健センター センター長 1 名 教職員 3 名	脇 貴典 （DAC センター 助教） 末吉 彩香 （人間系/DAC センター 助教）	障害学生支援体制の説明、DAC センター障害学生支援関連施設等見学
12 月 19 日	RISTEX 事業 JST 事務局 2 名 アドバイザー1 名	佐々木 銀河 （人間系 准教授） 脇 貴典 （DAC センター 助教）	障害学生支援体制・発達障害学生支援プロジェクト事業の概要説明、アクセシブルスタディルームの見学
12 月 20 日	金子書房 スタッフ 1 名	佐々木 銀河 （人間系 准教授）	障害学生支援体制・発達障害学生支援プロジェクト事業の概要説明
令和 5 年 1月10日	株式会社ふくしごと 職員他 2 名	佐々木 銀河 （人間系准教授/BHE 業務推進マネージャー）	障害学生支援体制・発達障害学生支援プロジェクト事業の概要説明
1 月 12 日	台北教育大学 教授 1 名	竹田 一則 （人間系 教授/	障害学生支援体制・発達障害学

		BHE 次長） 脇 貴典 （BHE 助教） 末吉 彩香 （人間系/BHE 助教）	生支援プロジェクト事業の概要説明 BHE 障害学生支援関連施設等の見学
１月24日	岐阜聖徳学園大学 室長１名	脇 貴典 （BHE 助教） 末吉 彩香 （人間系/BHE 助教）	障害学生支援体制・発達障害学生支援プロジェクト事業の概要説明、BHE 障害学生支援関連施設等見学、意見交換
２月７日	信州大学 教職員２名	脇 貴典 （BHE 助教） 末吉 彩香 （人間系/BHE 助教） 鶴井 孝大 （BHE 支援コーディネーター）	障害学生支援体制・発達障害学生支援プロジェクト事業の概要説明、BHE 障害学生支援関連施設等見学、意見交換
３月２日	鳥取大学 教職員３名	脇 貴典 （BHE 助教） 末吉 彩香 （人間系/BHE 助教） 中野 泰伺 （BHE 助教）	障害学生支援体制・発達障害学生支援プロジェクト事業の概要説明、BHE 障害学生支援関連施設等見学、意見交換

各大学等からの障害学生支援に関するメール・電話等の遠隔相談対応を延べ 44 件（前年度 18 件）行った。具体的な相談対応については下記の表の通りである（複数回行われた相談対応については割愛した）。

相談対応一覧

日時	相談者	対応者（敬称略）	概要
令和３年 ４月 20 日	神奈川大学	佐々木 銀河 （人間系 准教授）	学生に対しての啓発活動について
４月 26 日	名城大学	脇 貴典 （DAC センター 助教）	周りの雑音は気にならず、静寂が不安になるという学生の対応について
４月 28 日	崇城大学	山森 一希	支援や配慮の提供における具体的

		（DAC センター研究員）	手法に関する質問（内部障害）
5 月 26 日	長岡造形大学	佐々木　銀河 （人間系　准教授）	困りごと調査等について
5 月 31 日	獨協大学	脇　貴典 （DAC センター　助教）	支援や配慮の提供における具体的手法に関する質問
6 月 15 日	日本大学	中野　泰伺 （DAC センター　助教）	精神障害・発達障害学生の支援や配慮の提供における具体的手法について
6 月 17 日	兵庫医科大学	末吉　彩香 （人間系/DAC センター助教）	肢体不自由（上下肢機能）における突発的な発作による通学が困難な場合の対応について
6 月 20 日	日本大学	中野　泰伺 （DAC センター　助教）	精神障害・発達障害学生の支援の具体例・対応例について
6 月 20 日	兵庫医科大学	山森　一希 （DAC センター　研究員）	周期性四肢麻痺学生の発作発症時の演習・学外実習等の対応について
6 月 21 日	昭和女子大学	中野　泰伺 （DAC センター　助教）	精神障がい系の学生に対して、どのような基準で合理的配慮・支援の内容を決めているのか
6 月 23 日	早稲田大学	山森　一希 （DAC センター　研究員）	重度訪問介護利用者の大学修学支援事業計画書について
6 月 30 日	神奈川工科大学	山森　一希 （DAC センター　研究員） 尾﨑　柊子 （DAC センター 支援コーディネーター）	肢体不自由（下肢機能）学生の学内で行う生活介助は合理的配慮の範疇か
7 月 4 日	日本大学	中野　泰伺 （DAC センター　助教）	精神障害学生からの対面授業のオンライン授業への代替に係る対応について
7 月 7 日	京都光華女子大学	山森　一希 （DAC センター　研究員）	内部障害学生の欠席の取扱いについて
7 月 11 日	神奈川工科大学	鶴井　孝大 （DAC センター 支援コーディネーター）	視覚情報が必要な必修単位のある学科に入学希望者への対応について
7 月 13 日	昭和女子大学	中野　泰伺 （DAC センター　助教）	障がい学生の合理的配慮としてのオンライン授業について

7 月 27 日	津田塾大学	三枝　里江 （DAC センター研究員）	ろう学生の教員免許取得（英語）に関するご相談
8 月 22 日	香川大学	脇　貴典 （DAC センター　助教） 中野　泰伺 （DAC センター　助教）	精神障害のある学生の教育実習での配慮について
9 月 1 日	一橋大学	大村　美保 （人間系　助教/DAC センター　ソーシャルワークスーパーバイザー）	身体障害学生の福祉サービス利用に関すること
9 月 2 日	九州ルーテル学院大学	脇　貴典 （DAC センター　助教）	発達障がい学生の自助スキル向上のための取組について
10 月 5 日	放送大学	錢谷　柳子 （DAC センター　事務）	学生証の顔写真について、医療上の理由や宗教上の理由により帽子着用や布を覆うことを認めているか
10 月 14 日	流通経済大学	中野　泰伺 （DAC センター　助教）	「過敏性腸症候群の疑い」との診断を受けた学生の診断書の提出ルール等取扱い等について
10 月 19 日	帝京科学大学	三枝　里江 （DAC センター　研究員） 塚田　茜 （DAC センター　事務）	聴覚障害学生の支援コーディネートについて
11 月 8 日	日本福祉大学	末吉　彩香 （人間系/DAC センター　助教）	不服申立ての手続きについて等
11 月 10 日	佐久大学	末吉　彩香 （人間系/DAC センター　助教）	合理的配慮の申請・受理から、支援の決定・実施までの期間、各種様式フォーマットの提供
11 月 25 日	東京海洋大学	佐々木　銀河 （人間系　准教授）	障害学生支援に対する相談等の対応や体制整備について
11 月 28 日	日本大学	中野　泰伺 （DAC センター　助教）	発達障害学生への支援について
12 月 2 日	琉球大学	尾﨑　柊子 （DAC センター　支援コーディネーター）	「重度訪問介護の大学修学支援事業」の活用等について

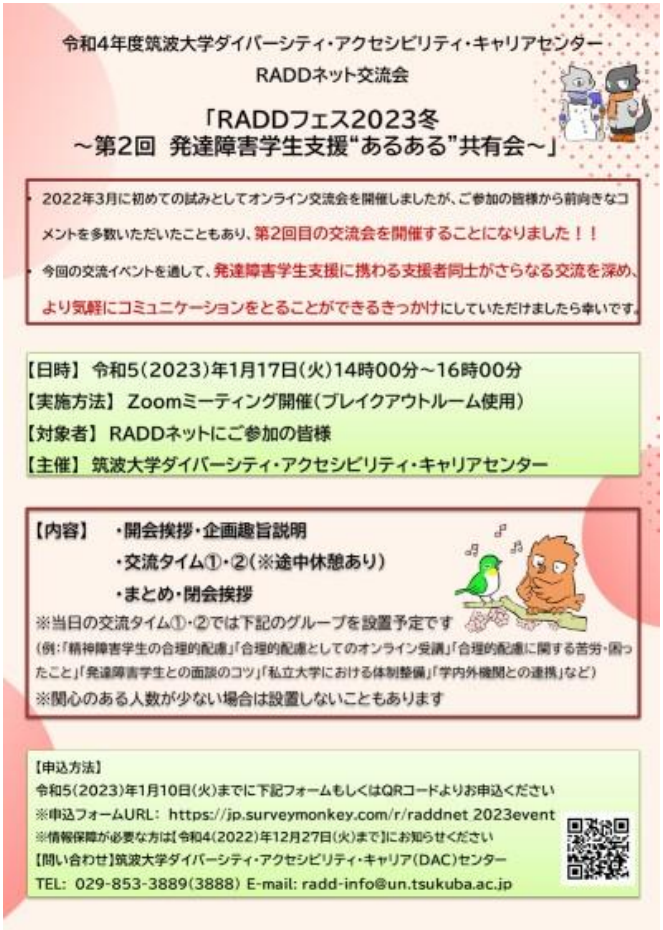
		末吉　彩香 （人間系/DAC センター助教）	
12 月 12 日	明星大学	三枝　里江 （DAC センター研究員）	聴覚に障がいのある入学検討者にかかる対応について（中高 1 種（英語）の教員免許状取得希望）
12 月 6 日	茨城県 教育委員会	大村　美保 （人間系　助教/DAC センター　ソーシャルワークスーパーバイザー）	教員採用試験に合格された本学学生の勤務中における身体介助について
12 月 16 日	明治大学	尾﨑　柊子 （DAC センター支援コーディネーター） 末吉　彩香 （人間系/DAC センター助教）	重度訪問介護の大学修学支援事業について
令和 5 年 1 月 11 日	兵庫教育大学	脇　貴典 （BHE 助教） 中野　泰伺 （BHE 助教）	発達障害学生（ADHD）への配慮についての相談
1 月 31 日	東京医科歯科大学	岡野　雅典 （BHE 支援コーディネーター）	授業中の音声情報の視覚化支援について
2 月 1 日	岐阜成徳学園大学	末吉　彩香 （人間系/BHE 助教）	合理的配慮依頼文書について
2 月 3 日	愛知学院大学	中野　泰伺 （BHE 助教）	障害学生への合理的配慮としてオンライン受講について
2 月 10 日	信州大学	末吉　彩香 （人間系/BHE 助教）	学生が使用しているノートテイク用のツール（CaptiOnline や UD トーク等）、入試時の配慮申し出について
2 月 22 日	慶応義塾大学	脇　貴典 （BHE 助教）	精神障害のある学生の合理的配慮について
3 月 3 日	東洋大学	末吉　彩香 （人間系/BHE 助教）	合理的配慮依頼文書の作成・配布手順、学生や教員からの、授業における配慮に関する相談対応等
3 月 6 日	秋田大学	岡野　雅典	聴覚障害のある学生の臨床実習対

		（BHE 支援コーディネーター）	応について
３月８日	東京成徳大学	末吉　彩香 （人間系/BHE 助教）	「障害学生支援コーディネーター」「カウンセラー」「スクールソーシャルワーカー」の紹介機関について
３月 16 日	岐阜聖徳学園大学	脇　貴典 （BHE 助教） 末吉　彩香 （人間系/BHE 助教）	不安性障害の診断を受けた学生への合理的配慮について
３月 17 日	武蔵大学	末吉　彩香 （人間系/BHE 助教）	障害を理由とした合理的配慮としてのオンラインによる授業受講について
３月 23 日	大阪公立大学	鶴井　孝大 （BHE 支援コーディネーター）	視覚障害学生への支援について
３月 28 日	学習院大学	中野　泰伺 （BHE 助教） 末吉　彩香 （人間系/BHE 助教）	合理的配慮としてのオンライン受講について

5.2 発達障害学生支援に関する相談ネットワーク（RADD ネット）

相談対応についてオンライン型相談の導入を進め、各大学教職員と支援ノウハウを共有できるようにクローズ型ソーシャル・ネットワーキング・サービス（SNS）による相談ネットワーク「RADD ネット」を一昨年度より構築・運営している。
https://dac.tsukuba.ac.jp/radd/joint-base/raddnet/

今年度は RADD ネット参加者を対象とした交流会を 2 回、企画した。今年度 1 回目（通算 2 回目の開催）は令和 5 年 1 月 17 日（火）に Zoom ミーティングにて開催し、高等教育機関の教職員 14 名が参加した。交流会後の事後アンケートでは、「普段、他大学の状況をお聞きすることもあまりないので、大変勉強になった」「クローズなので、安心して交流できた点と他大学の率直な様子を聞くことがここちよかった」「グループで話をお聞きしたり話したりすることで、所属大学でできていること、できていないことの確認ができ、今後、どのように活動していけばよいかの指針が見えてきた」等の感想が寄せられた。


令和4年度筑波大学ダイバーシティ・アクセシビリティ・キャリアセンター
RADDネット交流会

「RADDフェス2023冬
～第2回 発達障害学生支援"あるある"共有会～」

- 2022年3月に初めての試みとしてオンライン交流会を開催しましたが、ご参加の皆様から前向きなコメントを多数いただいたこともあり、第2回目の交流会を開催することになりました！！
- 今回の交流イベントを通して、発達障害学生支援に携わる支援者同士がさらなる交流を深め、より気軽にコミュニケーションをとることができるきっかけにしていただけましたら幸いです。

【日時】 令和5(2023)年1月17日(火)14時00分～16時00分
【実施方法】 Zoomミーティング開催(ブレイクアウトルーム使用)
【対象者】 RADDネットにご参加の皆様
【主催】 筑波大学ダイバーシティ・アクセシビリティ・キャリアセンター

【内容】 ・開会挨拶・企画趣旨説明
・交流タイム①・②(※途中休憩あり)
・まとめ・閉会挨拶
※当日の交流タイム①・②では下記のグループを設置予定です
(例:「精神障害学生の合理的配慮」「合理的配慮としてのオンライン受講」「合理的配慮に関する苦労・困ったこと」「発達障害学生との面談のコツ」「私立大学における体制整備」「学内外機関との連携」など)
※関心のある人数が少ない場合は設置しないこともあります

【申込方法】
令和5(2023)年1月10日(火)までに下記フォームもしくはQRコードよりお申込ください
※申込フォームURL: https://jp.surveymonkey.com/r/raddnet 2023event
※情報保障が必要な方は【令和4(2022)年12月27日(火)まで】にお知らせください
【問い合わせ】筑波大学ダイバーシティ・アクセシビリティ・キャリア(DAC)センター
TEL: 029-853-3889(3888) E-mail: radd-info@un.tsukuba.ac.jp

上：RADD ネット交流会（1 月開催分）フライヤー

また、今年度 2 回目(通算 3 回目)は、令和 5 年 3 月 20 日(月)に、「バーチャル会議室 oVice “オヴィス”」にて開催(予定)し、高等教育機関の教職員 25 名が参加した。交流会後の事後アンケートでは、「Zoom よりもリラックスした雰囲気や他のテーマに移動できるところ等がよかったです。また、同じような課題を持っている支援者の方々がいらっしゃると知ることができただけで今後の励みになった」「テーマごとに細かくグループを区切っていただいていたこと、またファシリテーターの先生が上手くお話を進めてくださったので、中身のある交流ができた」「知りたかったことについてお話を伺うことができ、またとても質問しやすく、参加してよかった」等の感想が寄せられた。

(上)RADD ネット交流会(3 月開催分)フライヤー

RADD ネットには、現在までに全国 152 校(国立 28 校、公立 11 校、私立 93 校、短期大学 7 校、高等専門学校 4 校、その他 9 校)(前年度:全国 97 校(国立 23 校、公立 5 校、私立 60 校、短期大学 3 校、高等専門学校 2 校、その他 4 校)から参加申し込みがあった。また、申込者は計 216 名(教員 97 名、職員 61 名、専門職員 97 名、その他 2 名;一部重複あり)(前年度:申込者 155 名(教員 61 名、職員 39 名、専門職員 55 名;一部重複あり)であった。

今年度は、「各大学における相談部署の通称」「合理的配慮としてのオンライン受講」「RADD ネット交流会 当日の様子について」「障害学生の修学支援」などに関する相談等

が寄せられ、各大学における対応状況等に関する情報共有が行われた。また、各大学等でのイベントに関する投稿も寄せられ、情報共有の場としても活用された。

RADD ネット申し込み校一覧を以下の表に示す。

RADD ネット申し込み校一覧

名称	種別	都道府県
東北大学	国立大学	宮城県
山形大学	国立大学	山形県
筑波大学	国立大学	茨城県
筑波技術大学	国立大学	茨城県
お茶の水女子大学	国立大学	東京都
東京工業大学	国立大学	東京都
東京大学	国立大学	東京都
一橋大学	国立大学	東京都
横浜国立大学	国立大学	神奈川県
総合研究大学院大学	国立大学	神奈川県
新潟大学	国立大学	新潟県
福井大学	国立大学	福井県
信州大学	国立大学	長野県
静岡大学	国立大学	静岡県
豊橋技術科学大学	国立大学	愛知県
三重大学	国立大学	三重県
京都大学	国立大学	京都府
大阪大学	国立大学	大阪府
神戸大学	国立大学	兵庫県
奈良女子大学	国立大学	和歌山県
鳥取大学	国立大学	鳥取県
徳島大学	国立大学	徳島県
香川大学	国立大学	香川県
高知大学	国立大学	高知県
福岡教育大学	国立大学	福岡県
大分大学	国立大学	大分県
宮崎大学	国立大学	宮崎県
鹿児島大学	国立大学	鹿児島県
国際教養大学	公立大学	秋田県

東京都立産業技術大学院大学	公立大学	東京都
横浜市立大学	公立大学	神奈川県
静岡県立大学	公立大学	静岡県
名古屋市立大学	公立大学	愛知県
滋賀県立大学	公立大学	滋賀県
大阪府立大学	公立大学	大阪府
島根県立大学	公立大学	島根県
尾道市立大学	公立大学	広島県
熊本県立大学	公立大学	熊本県
名桜大学	公立大学	沖縄県
北海道科学大学	私立大学	北海道
札幌学院大学	私立大学	北海道
北海学園大学	私立大学	北海道
北星学園大学	私立大学	北海道
東北女子大学	私立大学	青森県
東北医科薬科大学	私立大学	宮城県
東北学院大学	私立大学	宮城県
東北芸術工科大学	私立大学	山形県
流通経済大学	私立大学	茨城県
高崎健康福祉大学	私立大学	群馬県
日本薬科大学	私立大学	埼玉県
跡見学園女子大学	私立大学	埼玉県
浦和大学	私立大学	埼玉県
獨協大学	私立大学	埼玉県
敬愛大学	私立大学	千葉県
川村学園女子大学	私立大学	千葉県
三育学院大学	私立大学	千葉県
淑徳大学	私立大学	千葉県
城西国際大学	私立大学	千葉県
東京基督教大学	私立大学	千葉県
麗澤大学	私立大学	千葉県
上智大学	私立大学	東京都
帝京科学大学	私立大学	東京都
法政大学	私立大学	東京都
東邦大学	私立大学	東京都

昭和女子大学	私立大学	東京都
武蔵野音楽大学	私立大学	東京都
玉川大学	私立大学	東京都
江戸川大学	私立大学	東京都
東京家政大学	私立大学	東京都
東京農業大学	私立大学	東京都
東洋大学	私立大学	東京都
青山学院大学	私立大学	東京都
慶應義塾大学	私立大学	東京都
国際基督教大学	私立大学	東京都
芝浦工業大学	私立大学	東京都
創価大学	私立大学	東京都
大正大学	私立大学	東京都
中央大学	私立大学	東京都
帝京大学	私立大学	東京都
帝京平成大学	私立大学	東京都
東京女子大学	私立大学	東京都
武蔵大学	私立大学	東京都
明治学院大学	私立大学	東京都
明治大学	私立大学	東京都
明星大学	私立大学	東京都
立教大学	私立大学	東京都
ルーテル学院大学	私立大学	東京都
早稲田大学	私立大学	東京都
立正大学	私立大学	東京都
武蔵野大学	私立大学	東京都
日本大学	私立大学	東京都
サイバー大学	私立大学	東京都
東京造形大学	私立大学	東京都
フェリス女学院大学	私立大学	神奈川県
横浜美術大学	私立大学	神奈川県
神奈川大学	私立大学	神奈川県
星槎大学	私立大学	神奈川県
事業創造大学院大学	私立大学	新潟県
北陸大学	私立大学	石川県

松本看護大学	私立大学	長野県
岐阜保健大学	私立大学	岐阜県
東海学院大学	私立大学	岐阜県
愛知淑徳大学	私立大学	愛知県
日本赤十字豊田看護大学	私立大学	愛知県
名城大学	私立大学	愛知県
同志社女子大学	私立大学	京都府
京都外国語大学	私立大学	京都府
京都文教大学	私立大学	京都府
立命館大学	私立大学	京都府
同志社大学	私立大学	京都府
京都芸術大学	私立大学	京都府
阪南大学	私立大学	大阪府
大阪人間科学大学	私立大学	大阪府
桃山学院大学	私立大学	大阪府
大阪大谷大学	私立大学	大阪府
近畿大学	私立大学	大阪府
四天王寺大学	私立大学	大阪府
羽衣国際大学	私立大学	大阪府
大阪電気通信大学	私立大学	大阪府
神戸芸術工科大学	私立大学	兵庫県
神戸女学院大学	私立大学	兵庫県
武庫川女子大学	私立大学	兵庫県
兵庫大学	私立大学	兵庫県
鳥取看護大学	私立大学	鳥取県
広島女学院大学	私立大学	広島県
徳島文理大学	私立大学	徳島県
純真学園大学	私立大学	福岡県
福岡大学	私立大学	福岡県
西南女学院大学	私立大学	福岡県
福岡工業大学	私立大学	福岡県
長崎外国語大学	私立大学	長崎県
九州看護福祉大学	私立大学	熊本県
仙台青葉学院短期大学	短期大学	宮城県
秋田職業能力開発短期大学校	短期大学	秋田県

作新学院大学女子短期大学部	短期大学	栃木県
創価女子短期大学	短期大学	東京都
大垣女子短期大学	短期大学	岐阜県
滋賀文教短期大学	短期大学	滋賀県
長崎短期大学	短期大学	長崎県
苫小牧工業高等専門学校	高等専門学校	北海道
小山工業高等専門学校	高等専門学校	栃木県
愛知県立総合看護専門学校	高等専門学校	愛知県
佐世保工業高等専門学校	高等専門学校	長崎県
College of Staten Island, City University of New York	その他	ニューヨーク州
国立高専機構本部	その他	東京都
その他 6 校	その他	—

5.3 仮想事例動画を用いた研修

例年、具体的な支援方法について検討を希望するワークショップ型の研修や事例検討会について一定程度のニーズがある。一方で、多様な学生に関連した事例検討は、個人情報保護の観点から、具体的な事例についての情報の取り扱いや情報交換が難しい現状があった。そのため、BHE では教職員向けの研修や事例検討会で用いるために、個人情報の制約のない仮想事例動画を作成し、FD/SD などの研修に使用している。今年度は上述した FD/SD 研修会において、下記の仮想事例動画を用いて行った。

今年度の FD/SD 研修会に使用した仮想事例動画一覧

研修会テーマ	事例のキーワード	登場人物	事例の概要
アセスメント（2022 年 7 月 29 日実施）	アセスメント ADHD 自己管理 合理的配慮	・障害学生支援担当者 ・学生	＜前半＞やる気が出ずに課題やレポートを先延ばしにしてしまい、単位の取得に悩む学生との初期面接で、修学環境を聞き取っている場面。
			＜後半＞前回の面談時に紹介したスケジュール管理方法をもとに、課題やレポートをうまくこなす方法等を改めて考える場面。
キャリア支援（2022 年 10 月 20 日実施）	就職活動	・学生 ・就職課相談員	ASD が疑われる学生が、内定をもらえないという主訴で就職課相談員と相談を行う場面。
自己特性理解支援（2023 年 1月 20 日実施）	発達障害が疑われる学生	・学生 ・障害学生支援担当者	学生が、授業で見た ADHD の特性について、自分自身にも当てはまるのではないかとの訴えがあり、それについて障害学生支援担当者と相談を行う場面。

（上：仮想事例動画（アセスメント）の様子）

上記の FD/SD 研修会以外にも、「立教大学 実践！バリアフリー講座～発達しょうがいの理解と支援の実践～」においても仮想事例動画が上映され、参加者同士でのグループワークやグループディスカッションをする際の教材として利用された。「立教大学 実践！バリアフリー講座～発達しょうがいの理解と支援の実践～」におけるワークショップ参加者の声として、「具体的な事例を提示いただき、対応について考えるきっかけとなった」、「発達障害を持つ人の特性はそれぞれ異なるため、型にはめることなく、その人の状況（得意、苦手、補助）に応じて、丁寧に対応しなければいけないと感じた」等の感想が寄せられた。

6 発達障害学生支援に有効なデータベース構築と配信

6.1 支援情報配信サービス「Learning Support Book(LSB)」の概要

全国の大学等では発達障害の診断のある学生が増加しているが、発達障害は「目に見えない」障害であり、発達障害の傾向はあるが医学的診断に至っていない、いわゆる「グレーゾーン」の学生が多く在籍している。これらの学生の中には、“障害”という言葉や医学的診断への抵抗から、相談窓口へのアクセスが難しく、各大学で学生対応に苦慮する対象層の典型である。「グレーゾーン」の学生では困っているのに有益な支援情報が受けられないため、自身の努力や性格の問題と思い込み、休学・留年・退学等で大学をドロップアウトしてしまう場合もある。そこで、発達障害を全ての人が生まれながらに有する「脳の多様性(ニューロダイバーシティ)」という考え方に置き換えて、医学的診断の有無にとらわれず、大学に在籍する多様な発達特性を有する学生が自立して自身の学習・生活スキルを向上する情報配信サービスとして開発された。

https://dac.tsukuba.ac.jp/radd/joint-base/lsb/

「Learning Support Book(LSB)」では、発達障害のある方がもつ独自の視点や経験に関する情報を収集している。情報収集にあたっては、筑波大学ダイバーシティ・アクセシビリティ・キャリアセンターを利用する発達障害学生および、筑波大学の学生サポートスタッフ、学外の発達障害当事者の協力を得ながら、発達障害のある方にとって学業や生活に役立つ情報を WEB 上で配信している。

LSB に掲載されているコンテンツは、「ノート・メモの取り方」、「試験対策・レポートの書き方」、「タスク・スケジュール管理」、「忘れ物を防ぐ方法」、「勉強のやる気・集中力アップ」、「学業と趣味・生活の両立」「コミュニケーションの取り方」のように、“障害”という言葉を基本的に用いないデザインにして、医学的診断に抵抗がある学生でもアクセスしやす

いという特徴がある。特に、発達障害学生に有効なハイテク・ローテク支援技術（Assistive Technology）に関する情報を掲載することで、学生自身が障害特性を補うような自助ツールを活用したり学習能力を向上するための知識を得たりすることができる。すなわち、大学で修学困難に陥っているが専門機関につながっていない学生への支援リソースとして活用することができるだけでなく、障害のない学生がより学業・生活上でスキルアップするための教材としても利用できる。

また、ログインするアカウントの属性に応じて、教職員向けなど各ユーザーが困りやすい事柄について必要な情報を配信することも可能であるため、FD 及び SD を受講した他大学の教職員が、自校に戻った際の学習教材としても活用することができる。

なお、LSB については、令和 2 年 12 月にユニバーサルデザインの国際的顕彰事業である IAUD 国際デザイン賞コミュニケーションデザイン部門で銅賞を受賞している。

6.2 支援情報配信サービス「Learning Support Book（LSB）」の共同利用実績

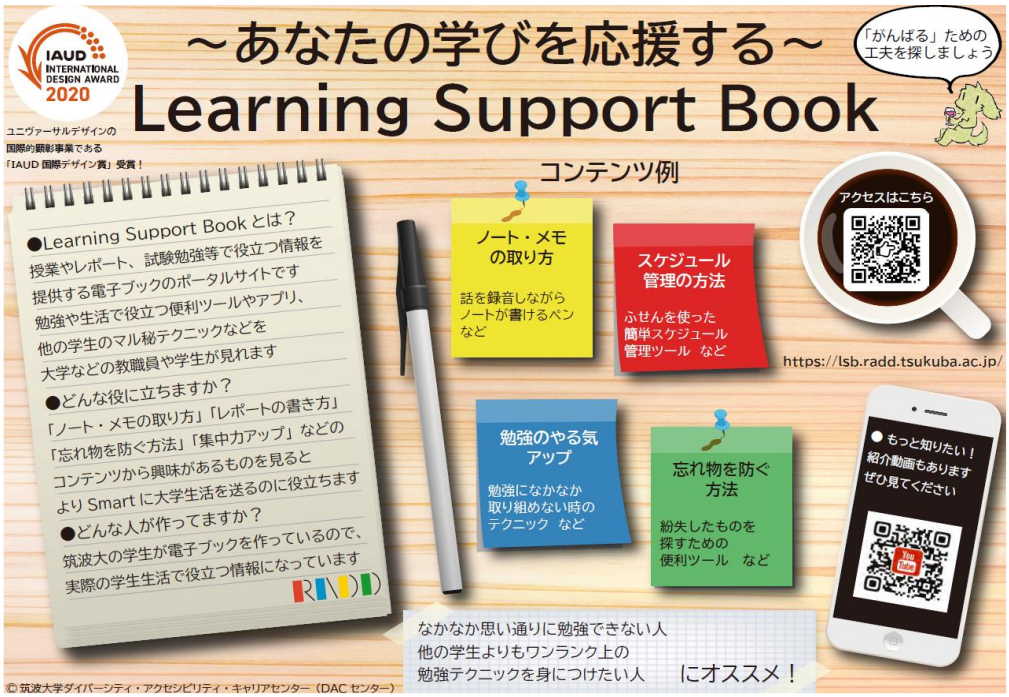
令和2年度より、共同利用する大学等における利便性を向上するとともに安定して LSB を利用できる環境を構築するため、LSB の共同利用に関する規定を設けた。規定の中で、無償のトライアル版と有償のフルサポート版を設けて、各大学等のニーズに応じた共同利用の体制を構築している。令和 2 年度からの累計で、教職員が閲覧可能なトライアル版は 28 校（前年度 38 校）、所属学生も自由に閲覧できるフルサポート版は 17 校（前年度 7 校）より申し込みがあった。支援情報配信サービス「Learning Support Book（LSB）」について全国 45 校（国立 9 校、公立 6 校、私立 26 校、短期大学 2 校、高等専門学校 2 校）（前年度：全国 45 校（国立 8 校、公立 6 校、私立 26 校、短期大学 3 校、高等専門学校 2 校）の配信を実施した。配信を行った大学等を以下の表に示す。

LSB 配信校一覧（学校種別）

名称	種別	都道府県
新潟大学	国立大学	新潟県
上越教育大学	国立大学	新潟県
名古屋大学	国立大学	愛知県
山梨大学	国立大学	山梨県
滋賀大学	国立大学	滋賀県
神戸大学	国立大学	兵庫県
兵庫教育大学	国立大学	兵庫県
高知大学	国立大学	高知県
鹿屋体育大学	国立大学	鹿児島県
国際教養大学	公立大学	秋田県

会津大学	公立大学	福島県
東京都立大学	公立大学	東京都
横浜市立大学	公立大学	神奈川県
福岡女子大学	公立大学	福岡県
長崎県立大学	公立大学	長崎県
宮城学院女子大学	私立大学	宮城県
清泉女学院大学	私立大学	長野県
明治大学	私立大学	東京都
法政大学	私立大学	東京都
慶応義塾大学	私立大学	東京都
武蔵大学	私立大学	東京都
東京女子大学	私立大学	東京都
早稲田大学	私立大学	東京都
成蹊大学	私立大学	東京都
津田塾大学	私立大学	東京都
創価大学	私立大学	東京都
関東学院大学	私立大学	神奈川県
麗澤大学	私立大学	千葉県
和洋女子大学	私立大学	千葉県
アール医療専門職大学	私立大学	茨城県
獨協大学	私立大学	埼玉県
愛知淑徳大学	私立大学	愛知県
長浜バイオ大学	私立大学	滋賀県
京都芸術大学	私立大学	京都府
京都橘大学	私立大学	京都府
神戸学院大学	私立大学	兵庫県
兵庫大学・兵庫大学短期大学部	私立大学	兵庫県
広島文教大学	私立大学	広島県
就実大学	私立大学	岡山県
九州ルーテル学院大学	私立大学	熊本県
九州看護福祉大学	私立大学	熊本県
清泉女学院短期大学	短期大学	長野県

就実短期大学	短期大学	岡山県
木更津工業高等専門学校	高等専門学校	千葉県
サレジオ工業高等専門学校	高等専門学校	東京都



Learning Support Book（LSB）の共同利用【高等教育機関向け】

LSB は全国の高等教育機関と共同利用しています

多様な特性を有する学生に対するスキルアップや適切な対応のために**積極的に他大学等とノウハウを共有して インクルーシブな高等教育環境の構築**を目指しています

●まずは教職員がお試し
・・・トライアル版
●所属学生も自由に見られるように
・・・フルサポート版

フルサポート版は多様な大学等の予算規模を考慮して**学生数に応じた利用料軽減方式**を用いています

学生数／１校	月額利用料
20,001 人以上	8,000 円
10,001～20,000 人	7,500 円
5,001～10,000 人	7,000 円
1,001～5,000 人	6,500 円
501～1,000 人	5,000 円
101～500 人	3,500 円
100 人以下	2,000 円

共同利用希望の大学等は LSB サイトから申込
または筑波大学 DAC センターにご連絡ください

【TEL】029-853-3888 / 3889
【E-mail】radd-info@un.tsukuba.ac.jp

	トライアル版	フルサポート版
利用料	無料	月額 2,000～8,000 円／１校
所属教職員の利用	✓ １校１アドレスまで	✓ 全教職員利用可
所属学生の利用		✓ 全学生利用可
「ノート・メモの取り方」	✓	✓
「試験対策・レポートの書き方」	✓	✓
「タスク・スケジュール管理」	✓	✓
「忘れ物を防ぐ方法」	✓	✓
「勉強のやる気・集中力アップ」	✓	✓
「学業と趣味・生活の両立」	✓	✓
「コミュニケーションの取り方」		✓
「就職活動」		✓
「教職員専用コンテンツ」		✓
シングルサインオン（SSO）対応		✓ 学認対応

LSB 共同利用は文部科学省「教育関係共同利用拠点」の活動の一環として実施されています。利用料は LSB を継続的に運用・発展するための人件費・設備費等に活用いたします

（上：LSB の案内チラシ）

6.3 支援情報配信サービス「Learning Support Book（LSB）」の改善

今年度は既存コンテンツの内容の更新、改修（各コンテンツの再編成）、コンテンツ内で引用するWEBサイトの確認作業を進めた。結果、2023年2月時点で24件のコンテンツ（トライアル版では18件）を改定し、新たに公開した。コンテンツの詳細については以下の通りである。（※今年度、改訂したコンテンツ名称には「※」を付記している）

LSBコンテンツ一覧

コンテンツ名称	コンテンツ概要	カテゴリ
※友人関係 （前編・後編）	同世代の友人とのかかわり方について、コミュニケーション上のマナーやかかわり方のコツを紹介した。	コミュニケーションの取り方 （13コンテンツ）
※先輩・後輩とのかかわり方	先輩や後輩との関わりについて、コミュニケーション上のマナーやかかわり方のコツを紹介した。	
※先生や指導教員とのかかわり方 （基本編・メール編）	指導教員や授業担当教員とのかかわり方や、教員宛にメールを送信する際のマナー、例文集を紹介した。	
たくさんのメールを整理する （前編・後編）	受信メールの整理方法やメールの見逃しを減らす工夫、複数のアカウントを一括管理するアプリなどを紹介した。	
SNSの使い方	主要なSNSの特徴と、SNSを利用する際の注意点を紹介した。	
※人の顔と名前の覚え方	人の名前や顔を覚えるためのコツや、失礼にならない名前の尋ね方について紹介した。	
グループワーク	授業中や就職活動におけるグループワークの目的やワーク中の役割、進め方を紹介したほか、グループで課題を行う際に便利な情報共有のためのアプリを紹介した。	
質疑応答のテクニック	授業中や研究室内での議論、論文発表会などを想定し、質問する・質問を受ける際のコツを紹介した。	
自分の気持ちの整え方	不安やイライラへの対処法や、アンガーマネジメントについて紹介した。	
大学生と恋愛	異性とのかかわり方や、恋人として接する際の留意点、デートDV等を紹介した。	

※ノート・メモの取り方 （便利ツール編・ テクニック編）	録音機能付きのデジタルペンや、PC でノートをとる際に便利なアプリ、ノートの取り方のコツなどを紹介した。	ノート・メモの 取り方 （3 コンテンツ）
※スライドの作り方	PowerPoint でスライド資料を作成する際の作成手順や留意点、作成時に活用できるアプリについて紹介した。	
タスク管理	日々のタスクの管理方法について、便利なアプリを中心に管理方法の工夫を紹介した。	タスク・スケジュール管理 （5 コンテンツ）
スケジュール管理 （カレンダーアプリ編・ その他のツール編）	カレンダーアプリやタイマーアプリ、手帳でのスケジュール管理のコツ等について紹介した。	
※履修申請について	履修登録の際の留意点や、主に新入生に向けて授業の区分の違いなどを紹介した。	
※論文など長期のスケジュール管理のコツ	卒業論文執筆等、長期的な計画立てが必要な場合に役立つツールや、先輩の経験談を紹介した。	
※集中力アップ （便利ツール編・ テクニック編）	ノイズキャンセリング機能付きヘッドホンやタイマーアプリ、その他集中を保つためのテクニックを紹介した。	勉強のやる気アップ・集中力アップ （7 コンテンツ）
勉強のやる気アップ （アプリ・ツール編・ テクニック編）	勉強のモチベーションを高められるような工夫について、便利なアプリや目標設定のポイント、環境調整の工夫などを紹介した。	
※オンライン授業の受け方 （ツール編・テクニック編）	オンラインで授業を受ける際の注意点や便利なアプリ、グッズについて紹介した。	
集中するための BGM	作業中の BGM のお勧めや、ホワイトノイズについて紹介した。	
※試験勉強の対策 （ツール活用編 ・テクニック編）	試験勉強に役立つ暗記アプリやスケジュールの立て方のコツ、授業中にできる工夫などを紹介した。	試験対策・ レポートの 書き方 （7 コンテンツ）
※レポートの書き方 （基礎編・ ツール・テクニック編）	レポート作成のための基本的な知識や、アイディア整理の際に便利なマインドマップ作成アプリについて紹介した。	
論文管理ソフト	文献管理ソフトなどを利用した論文・資料管理の方法について紹介した。	

※文献の集め方・まとめ方	文献検索エンジン等の利用方法や図書館の活用方法のほか、資料を保存・管理するためのツールについて紹介した。	
※文章の読み方	文字を読む際に視覚的により読みやすくなるようなツールを紹介した。	
忘れ物を防ぐ方法（便利ツール編・テクニック編）	紛失防止のタグやリマインダーアプリ、バッグインバッグなど忘れ物を防ぐ方法について紹介した。	忘れ物を防ぐ方法（3 コンテンツ）
片付け・整理整頓	片付けの方法がわからない人、気力がわかない人、物が捨てられない人などタイプ別に片付けの方法について紹介した。	
アルバイトの始め方（基礎編・実践編）	アルバイトの選択・情報収集・応募方法や留意点、履歴書の書き方や面接でのポイントを紹介した。	学業と趣味・生活の両立（16コンテンツ）
サークル・部活動の選び方	サークルの選び方についての留意点や、加入のタイミング・方法について紹介した。	
※大学生とお金（前編・後編）	お金の管理について、便利なアプリやファイル等を活用した管理方法、クレジットカードや学生ローンを利用する際の留意点等について紹介した。	
※大学生と身だしなみ（前編・後編）	身だしなみを整えるためのポイントや洗濯の際に役立つアプリ、服装の調整のために役立つアプリ等を紹介した。	
健康管理（前編・後編）	食事、飲酒・喫煙についての留意点や、体調不良になった場合の連絡方法、対処法等を紹介した。	
大学生と食生活	宅配サービスや調理キットなど自炊をサポートするサービスや商品のほか、スーパーマーケットを利用する際の工夫などを紹介した。	
朝の過ごし方	朝、余裕をもって身支度ができるようにするための工夫や、アラーム・スケジュール管理アプリ、地図アプリなどを紹介した。	
睡眠リズムを整える	アラームアプリや睡眠導入アプリの他、質のよい睡眠をとるための工夫を紹介した。	

趣味の見つけ方	余暇活動について、取り組む人数や必要な費用等の側面から整理し、大学生が取り組みやすそうな活動を紹介した。	
※新学期に向けたこころやからだの切り替え	長期休暇から新学期への切り替えに向けて、リフレッシュの方法や生活リズムの調整方法などを紹介した。	
※防犯対策 （一人暮らし編・トラブル編）	一人暮らしの学生が防犯のためにできる工夫や、貴重品の管理・悪質な勧誘などのトラブル対策について紹介した。	
※就活中の気持ちの整え方	就職活動中の落ち込みや不安な気持ちに対して、リフレッシュ方法や気分を記録する日記アプリなどを紹介した。	就職活動・進路 （2 コンテンツ）
自己分析について	主に就職活動における自己分析について、自己分析の方法や便利なツール、注意点を紹介した。	
障害者手帳を知る	障害者手帳についての基本的な知識と、取得までの流れ、メリットやデメリットについて紹介した。	その他 （3 コンテンツ）
自立支援医療 （精神通院医療）	自立支援医療の概要と申し込みまでの手順等を紹介した。	
障害者雇用での就職活動	障害者雇用での就職活動についての概要や、就職に向けたナビゲーションブックの作成、就職までのスケジュール等について紹介した。	

7 障害学生支援に関する各種講習会への講師依頼の対応

各大学等からの講師派遣依頼に基づき、拠点運営スタッフが 41 件(前年度 41 件)、延べ 5,568 名(前年度 3,001 名)に研修を行った。各種講習会の詳細については、以下の表に記載した。

講習会の詳細

日付	主催者	会場	参加者	講師	名称	形式
令和 3 年 5月 18 日	日本プライマリ・ケア連合学会	オンライン	大学教職員 34 名	脇 貴典（DAC センター助教）	第 218 回 保健・医療・福祉に関する勉強会	講義
6 月 10 日	アサヒグループジャパン株式会社	オンライン	従業員 330 名	河野 禎之（人間系/DAC センター助教）	SOGI/LGBTQ に関する基礎知識と大学・社会の動き	講義
6 月 20 日、22 日、27 日、29 日	筑波大学大学研究センター	オンライン	大学職員 18 名	佐々木銀河（人間系 准教授）	大学マネジメント講義	講義/演習
7 月 22 日	愛媛大学	愛媛大学	大学教職員・学生 50 名	河野 禎之（人間系/DAC センター助教）	愛媛大学性的マイノリティに関する理解促進セミナー「LGBTQ 学生支援の意義と具体例～筑波大学を例に～」	講義
7 月 26 日	地域科学研究会・高等教育情報センター	城西大学	大学教職員 20 名	河野 禎之（人間系/DAC センター助教）	ハラスメント法制の強化とキャンパス対応の深化「大学における SOGI 及び LGBTQ 支援の意義と現状～筑波大学の歩みをもとに～」	講義
7 月 28 日	札幌学院大学	オンライン	大学教職員	末吉 彩香（人間系/DAC	令和 4 年度 発達障がいの	講義

			112 名	センター　助教）	ある大学生への修学就職支援に関する FD/SD 研修会	
8 月 8 日	創価大学	オンライン	大学教職員 25 名	中野　泰伺（DAC センター助教）	授業等における合理的配慮に関する勉強会	講義
8 月 26 日	愛媛大学	オンライン	大学教職員 46 名	佐々木銀河（人間系　准教授）	SPOD フォーラム	講義/演習
8月 30 日	埼玉県立総合教育センター	オンライン	教職員 93 名	脇　貴典（DAC センター助教）	高等学校のこれからの学びの推進研修会	講義
9 月 8 日	法政大学	オンライン	大学教職員 10 名	河野　禎之（人間系/DAC センター助教）	大学における SOGI 及び LGBTQ 支援の意義と現状～筑波大学の歩みをもとに ～	講義
9 月 21 日	いばらき発達障害研究会	オンライン	一般 38 名	佐々木銀河（人間系　准教授）	いばらき発達障害セミナー	講義
9 月 22 日	上智大学	オンライン	大学教職員 70 名	佐々木銀河（人間系　准教授）	上智大学 FD	講義
9 月 29 日	東京海洋大学	オンライン	大学教職員 40 名	佐々木銀河（人間系　准教授）	東京海洋大学研修会	講義
9 月 30 日	金沢大学	オンライン	大学教職員 50 名	河野　禎之（人間系/DAC センター助教）	大学における SOGI 及び LGBTQ 支援の意義と現状～筑波大学の歩みをもとに ～	講義
10 月15日	東北大学	オンライン	大学専門教	佐々木銀河（人間系　准教授）	東北大学学生相談・特別支援セン	講義

			職員 12 名		タースーパービジョン研修	
10 月16日	神奈川 LD 等発達障害児・者親の会 にじの会	横浜市西区福祉保健活動拠点フクシア・多目的研修室	一般 15 名	佐々木銀河 （人間系 准教授）	神奈川 LD 等発達障害児・者親の会 にじの会 会員向け学習会	講義
11 月 9 日	北星学園大学	対面	大学教職員 30 名	末吉 彩香 （人間系/DAC センター 助教）	発達障害と学習支援	講義
11月12日	立教大学	立教大学池袋キャンパス	大学教職員/学生 50名	脇 貴典 （DAC センター助教）	実践！バリアフリー講座～発達しょうがいの理解と支援の実践～	講義/演習
11 月16日	昭和女子大学	オンライン	大学教職員 200 名	佐々木銀河 （人間系 准教授）	昭和女子大学障がい学生支援研修会	講義
11 月16日	公益社団法人日本理学療法士協会	オンライン	一般 15 名	佐々木銀河 （人間系 准教授）	公益社団法人日本理学療法士協会 産業領域業務推進部会	講義
11 月19日	日本心理学会	オンライン	一般 620 名	佐々木銀河 （人間系 准教授）	日本心理学会公開シンポジウム	講義
11月19日	LGBT 法連合会	早稲田大学	一般 50 名	河野 禎之 （人間系/DAC センター 助教）	筑波大学における LGBTQ 学生支援の現状と課題	講義
11月 20 日～21 日	日本学生相談学会	オンライン	大学等専門教職員 34 名	佐々木銀河 （人間系 准教授）	日本学生相談学会 第 60 回全国学生相談研修会	講義/演習
11月24日	全日空	ハイブリッド	従業員 2000 名	河野 禎之 （人間系/DAC センター 助教）	DE&I の実現に向けて一人ひとりができること：一人ひとりのリ	講義

					ーダーシップと行動を考える	
12月3日	千葉大学アカデミック・リンク・センター	オンライン	大学教職員23名	脇 貴典（DAC センター助教）	学生の抱える困難の理解と支援	講義
12 月 7 日	作新学院大学	オンライン	大学教職員85名	佐々木銀河（人間系 准教授）	作新学院大学FD・SD 研修	講義
12 月 8 日	千葉工業大学	オンライン	大学教職員122名	佐々木銀河（人間系 准教授）	千葉工業大学研修会	講義
12月9日	上智大学	上智大学中央図書館	教職員/学生30名	西村 恵（DAC センター支援コーディネーター）	「障害者支援を考える」について	講義/演習
12月10日	慶応義塾大学	オンライン	大学教員23名	佐々木銀河（人間系 准教授）	慶應義塾大学文学部FD 講演会	講義/演習
令和５年1月17日	大原大学院大学	オンデマンド	大学教職員	脇 貴典（BHE 助教）	FD・SD 研修会	講義
2 月 10 日	武田薬品工業株式会社	オンライン	一般50名	佐々木銀河（人間系准教授./BHE 業務推進マネージャー）	ND Symposium	講義
2 月 13 日	名古屋市立大学	オンライン	大学教職員82名	中野 泰伺（BHE 助教）	令和４年度FD・SD 講演会	講義
2 月 14 日	徳島文理大学	徳島文理大学	大学教職員403名	佐々木銀河（人間系准教授./BHE 業務推進マネージャー）	徳島文理大学研修会	講義
2 月 27 日	日本獣医生命科学大学	日本獣医生命科学大学	大学教職員50名	佐々木銀河（人間系准教授./BHE 業務推進マネージャー）	日本獣医生命科学大学 FD ワークショップ	講義/演習

3 月 2 日	大阪電気 通信大学	大阪電気 通信大学	大学 教職員 205 名	佐々木銀河 （人間系准教授. /BHE 業務推 進マネージャー）	大阪電気 通信大学 FD/SD 研修会	講義
3 月 3 日	東京 海洋大学	オンライン	大学 教職員 16 名	佐々木銀河 （人間系准教授. /BHE 業務推 進マネージャー）	東京海洋大学 研修会	講義/ 演習
3月10日	共立 女子大学	共立 女子大学	大学 教職員 47 名	脇 貴典 （BHE 助教）	学生相談研修会	講義
3 月 10 日	公益財団法 人大学コン ソーシアム 京都	オンライン	大学 教職員 60 名	佐々木銀河 （人間系准教授. /BHE 業務推進 マネージャー）	関西障がい学生 支援担当者 懇談会	講義
3月16日	東京医療 保健大学	オンライン	大学 教職員 30 名	脇 貴典 （BHE 助教）	FD 研修会	講義
3 月 21 日	星槎大学	新宿歴史 博物館 講堂	一般 230 名	佐々木銀河 （人間系准教授. /BHE 業務推 進マネージャー）	ヨコハマモデル シンポジウム	講義
3月23日	東京未来 大学	東京未来 大学	大学 教職員 150 名	脇 貴典 （BHE 助教）	FD・SD 研修会	講義

筑波大学ヒューマンエンパワーメント推進局
教育関係共同利用拠点事業
～ダイバーシティ＆インクルージョン教育拠点～
令和4年度活動報告書

【発行者】国立大学法人 筑波大学 ヒューマンエンパワーメント推進局
〒305-8572 茨城県つくば市天王台1－1－1 人間系学系棟A101
【WEBサイト】https://dac.tsukuba.ac.jp/radd/joint-base/
【電 話】029-858-3888／3889
【メール】radd-info@un.tsukuba.ac.jp